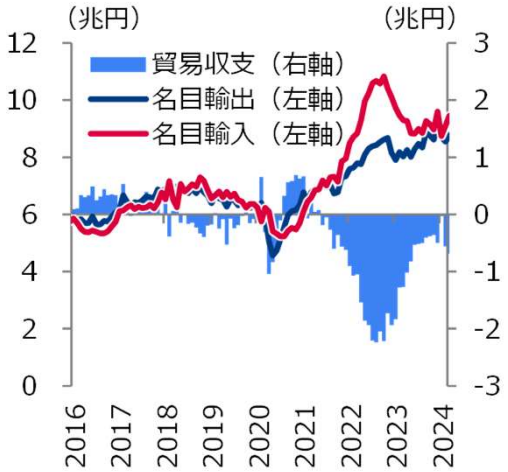
日本

貿易統計（2024年4月）

自動車輸出は持ち直すも、名目輸入の高止まりから貿易赤字継続

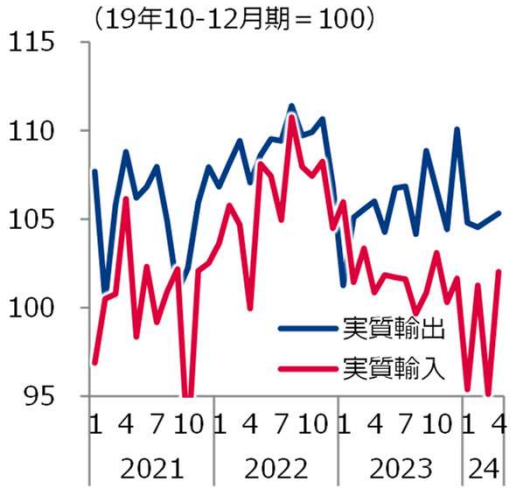
政策・経済センター
北川諒
03-6858-2717

1 名目輸出入・貿易収支



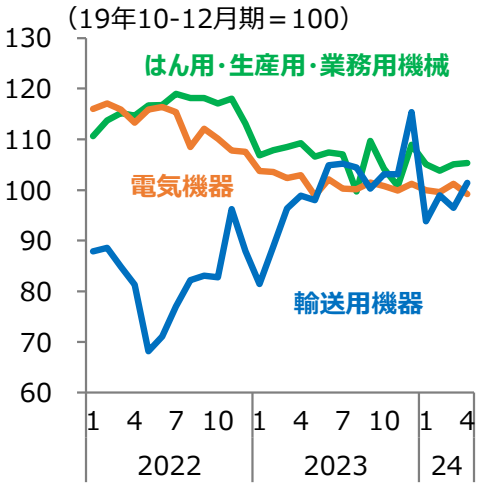
注：季節調整値。
出所：財務省「貿易統計」より三菱総合研究所作成

2 実質輸出入



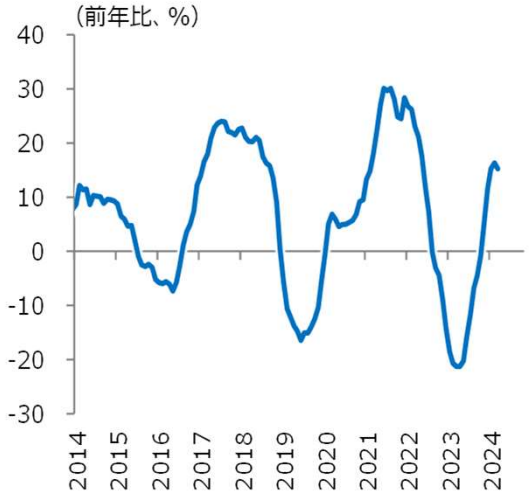
注：当社による実質・季節調整値。
出所：財務省「貿易統計」、日本銀行「企業物価指数」より三菱総合研究所作成

3 実質輸出（財別）



注：当社による実質・季節調整値。
出所：財務省「貿易統計」、日本銀行「企業物価指数」より三菱総合研究所作成

4 世界半導体出荷額



注：３カ月後方移動平均。
出所：米国半導体工業会より三菱総合研究所作成

評価ポイント

今回の結果

- 24年4月の貿易収支（季調値）は、▲5,608億円と35カ月連続の赤字となった（図表1）。名目輸出（前月比+0.9%）の増加と名目輸入（同▲0.5%）の減少により、貿易赤字幅は前月から縮小した。
- 価格・為替変動の影響を除いた実質輸出（当社試算、季調値）は、前月比+0.4%と2カ月連続で増加した（図表2）。実質輸入は、同+7.3%と2カ月ぶりに増加に転じ、23年平均並みの水準に復した。
- 実質輸出を財別にみると、一部メーカーの自動車生産・出荷が段階的に再開されていることから、自動車関連輸出が持ち直している。ただし、その回復は緩やかなペースに止まっている（図表3）。また、地域別にみると、米国向け（前月比+0.0%）・EU向け（同+0.8%）・ASEAN向け（同+1.4%）は増加した一方、中国向け（同▲2.9%）は2カ月ぶりに減少した。

基調判断と今後の流れ

- 貿易収支は、赤字幅の縮小が鈍化している。先行きは、円安地合いによって名目輸入が高止まりする可能性が高く、現状程度の赤字幅は当面続くと見込む。
- 実質輸出の先行きは、自動車生産の正常化に加え、①世界経済の緩やかな回復、②半導体市況の改善に支えられ、堅調に推移するとみる。
- ①について、グローバルな景況感は改善しており、金融引き締めによる下押しの影響が残るなかでも在庫調整の進展に伴って生産活動の復調が期待される。中国の景気刺激策やASEANの堅調な内需も輸出を下支えする。②について、世界半導体出荷額は24年3月に前年比+15.7%と大幅プラスに転じている（図表4）。AI市場の拡大を背景にして半導体需要は拡大が継続するとみられ、日本においても製造装置や電子部品関連が輸出の押上げに寄与するだろう。
- 輸出の下押しリスクとしては、①米国の通商政策、②米国の物価高・高金利長期化につられた各国の金融環境のタイト化、③中国経済の失速、が挙げられる。

Copyright (C) Mitsubishi Research Institute, Inc.